

「やる気を引き出す話」

担任している子どもが、鉄棒の技がなかなかできなくて元気をなくしていたり、なわとびの技が思うようにできなくて諦めてしまったりしていたとき、ある先輩の先生は、いつも子どもたちに「努力のつぼ」の話をしてあげていました。

人が何か新しいことを始めようとしたとき、神様から「努力のつぼ」をもらいます。また、今までできなかったことに挑戦しようと思ったときにも、神様から「努力のつぼ」をもらいます。

そのつぼには、いろいろな大きさがあって、どんな大きさのつぼをもらうかは自分では決められません。しかも、そのつぼは、目に見えないのです。

つぼをもらった人が、そのつぼに一生懸命「努力」を入れていくと、「努力」が少しずつたまっていきます。そしてある日、「努力」がいっぱいになって、つぼからあふれ出すのです。その時初めて、もらったつぼの大きさが分かるのです。つぼの中に「努力」を入れ続けていれば、いつの日か必ず、できなかったことができるようになるというのです。

でも、入れても入れても簡単にはあふれないので、途中で「努力」を入れるのをやめてしまう人がいます。また、どのくらい入ったのか途中では分からないので、不安になって、入れる「努力」を小さくしてしまう人もいます。

しかし、どんなに大きいつぼであっても、必ず、あふれ出す日がきます。あふれないつぼはありません。大丈夫です。

その先生の周りでは、いろいろな場面で、子どもたちの「今、どのくらい入ったかなあ」「もうすぐ、あふれるかなあ」「先生！今日、あふれたんだね!」という声がよく聞かれました。子どもたちは、この話にずいぶん勇気づけられているようでした。